



「大きなくりの木の下で」(作者不詳)

1. 大きなくりの木の下で あなたとわたし
 なかよく遊びましょう 大きなくりの木の下で
 (2、3番省略)

おお き な く り の き の し た で
 あ な た と わ た し
 な か よ く あ そ び ま し ょ う
 おお き な く り の き の し た で

歌は飽きずに何度もくりかえすことができるので、覚えにくい語彙や文法の規則を覚えるのにも利用できます。こうした例の代表的なものは助数詞かもしれませんが、助数詞を取り上げた歌として、「一本でもにんじん」「十人のインディアン」などがあります。

また、文法の規則を替え歌にしたものとして、1グループの動詞(五段動詞)のて形の音便のルールを紹介したものがああります。

「て形の歌」 詞：作者不詳

(“ Oh, My Clementine ”のメロディで歌う)

- みなさん、みなさん、てformを覚えましょう
 う、つ、る、って、ぶ、む、ぬ、んで、く、いて、
 く、いで、す、して

解説：辞書形が「う」「つ」「る」で終わる動詞のて形は「～って」(「買って」「立って」「帰って」など)になる。「ぶ」「む」「ぬ」で終わる動詞の場合は「～んで」(「呼んで」「飲んで」「死んで」など)になるといようなルール。同じようにます形からて形を作るように歌詞を変えることもできる。

(2) 中上級の場合

中上級では、歌の内容や背景を理解させることによって、日本事情に結びつけることができるでしょう。

「瀬戸の花嫁」を例にすると、「何についての歌ですか」

「瀬戸の花嫁」 詞：山上路夫

1. 瀬戸は日暮れて 夕波小波
 あなたの島へ お嫁にゆくの
 若いと誰もが 心配するけれど
 愛があるから だいじょうぶなの
 だんだん畑と さよならするのよ
 幼い弟 行くなと泣いた
 男だったら 泣いたりせずに
 父さん母さん だいじにしてね
 (2、3番省略)

「歌っているのはどんな人ですか」「若いとは何歳くらいですか」「なぜ心配するのですか」「だんだん畑とはどんなものだと思いますか」……と

質問して学習者に歌の内容について考えさせます。そして、日本人の考え方や感じ方などについてクラスで話し合うことができます。

(3) 日本事情と歌

どのようなレベルのクラスでも、日本の四季や年中行事に合わせて、その時々歌を紹介するのも楽しいでしょう。また、写真パネルなどを見せながらいっしょに日本事情の説明をするとさらに理解が深まるでしょう。歌の内容を自国の文化や習慣と比べることもできます。

四季や自然を歌った歌は、「さくらさくら」「春」「うみ」「夏の思い出」「もみじ」「虫のこえ」「雪」「たこたこあがれ」「四季の歌」などたくさんあります。

年中行事を紹介するのにいい歌は、「お正月」「うれしいひな祭り」「こいのぼり」「たなばたさま」などがあります。

参考文献

1. ストンフィールドズ企画・編集(1997)『ザ・カラオケ The Karaoke Japan's Best Hits』大村書店
2. 寺内弘子(1992)『歌って覚える日本語』凡人社
3. 松山祐士編(1998)『学園愛唱歌集』ドレミ楽譜出版社
4. ビデオ『Let's Learn Japanese by KARAOKE』(NHKインターナショナル)

歌詞のホームページへの掲載については、(株)日本音楽著作権協会への報告を行っております。

紙面の都合で、このコーナーでは紹介した歌の歌詞や楽譜を全てのせることができませんでした。どんな歌が知りたい場合は、参考文献やテープなどで調べてください。他の日本語の歌でも、ここで紹介したアイデアを使うことができますので、ぜひためしてみてください。

また「て形の歌」の作者や作られた時期についてご存知の方は情報をお寄せいただけたらと思います。

このコーナーの担当者：北村武士、八田直美(日本語国際センター専任講師)